

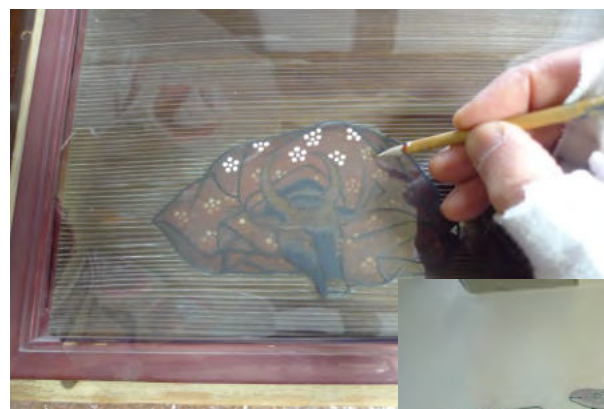
臨春閣

保存修理工事のポイント
—修理工事篇—



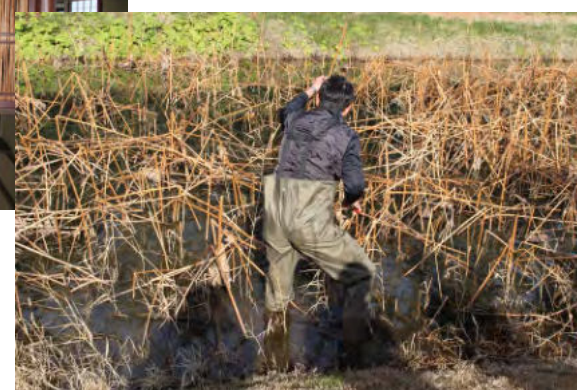
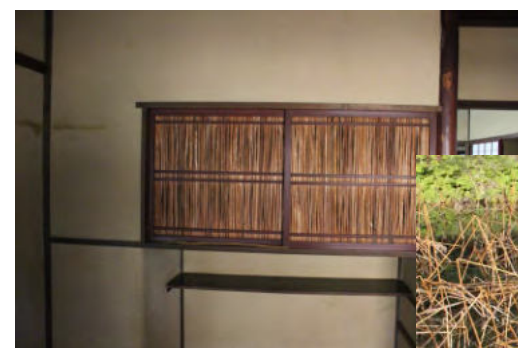
★建具製作 ★装演修理技術

戦後復旧修理工事以降、繊細過ぎるため清掃すら憚られて手の付けられなかった欄間は、取り外してみると彫刻部は傷み破損し、色紙も汚れや破れがあり、全体に劣化が著しい状態でした。彫刻と色紙はそれぞれの専門家により修理され、両者立ち合いのもと復旧し、最終的に取り付けられました。



★建造物彩色

「板絵十二支図額」は複製品の作成・代替取付が検討されたため、描かれている絵の調査および色見取り図の作成が行われました。最終的に複製品は作らず原本を元に戻すこととなったため、彩色の剥落止め・汚れ落としをするにとどまりました。



★建具製作

第一屋台子の間の水屋、戸袋の戸には蓮の茎が使用されています。傷んだ蓮の茎を新しいものに取り換えるにあたり、園内の蓮池から採集された茎が使われました。昭和の修理の際にも園内の蓮茎が使われたそうです。

★建具製作 ★装演修理技術 ★建造物漆塗 (★日本産漆生産・精製)

建具修理では、歪んで破損していた木部の補修と、紫外線で劣化し褪色した漆の塗り直しが行われました。障子は全面張り替えられ、汚損が著しかった一部の襖も張り替えました。修理前は開け閉めに一苦労だった雨戸やガラス戸も、今ではスムーズに動かせます。

